

ライフスタイルが変わっても、やっぱり「お好み焼が好き」が約 9 割。 お好み焼の意識調査「お好み焼アンケートレポート 2022」発表

オタフクソース株式会社(本社:広島市西区、代表取締役:佐々木孝富)は、全国の生活者を対象として 2022 年に実施した、お好み焼にまつわる意識調査「お好み焼アンケートレポート」の結果を発表します(一部抜粋)。この調査は、2018 年の調査結果との比較も用い、新型コロナウイルス感染拡大などで大きく変化する社会・生活環境において、日本の食卓でおなじみのメニューであるお好み焼の現状を把握し、お客様のニーズや、これからも親しんでいただけるようなご提案に生かしていくことを目的としています。

《調査結果のポイント》 ※【1】のみスクリーニング調査(以下 SCR 調査)、【2】～【5】は本調査

【1】2018 年も 2022 年も、3 万人のうち約 9 割が「お好み焼が好き」は変わらない傾向。

関西・中国・四国では約半数が「月に 1 回以上」喫食。

【2】コロナ禍で「手作り・冷凍・総菜・宅配」でのお好み焼の喫食頻度が増加。

手作りが増えたのは「家にいる時間が増えた」から。

【3】家庭でお好み焼を作る理由は「おいしい・簡単・みんなで食べられるから」。フライパン調理も増加。

【4】好きなトッピング第 1 位は、不動の「いか」。

【5】今後、お好み焼を食べる頻度は「増えると思う」が「減ると思う」を、手作り・総菜・外食など全カテゴリで上回る。

調査方法の概要

■調査方法/調査地域:インターネット調査/全国

■調査対象:(SCR 調査)20～69 歳の男女 31,853

(本調査)お好み焼を 3 カ月に 1～2 回以上食べる人 2,475

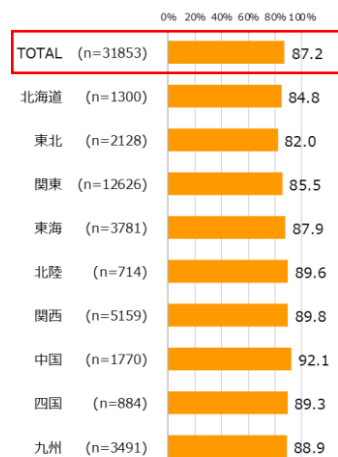
お好み焼を年に 1～2 回食べる人で、かつ近年食べる頻度が減った人 502

■調査期間:(SCR 調査)2022 年 4 月 1 日～4 月 4 日/(本調査)2022 年 4 月 7 日～4 月 11 日

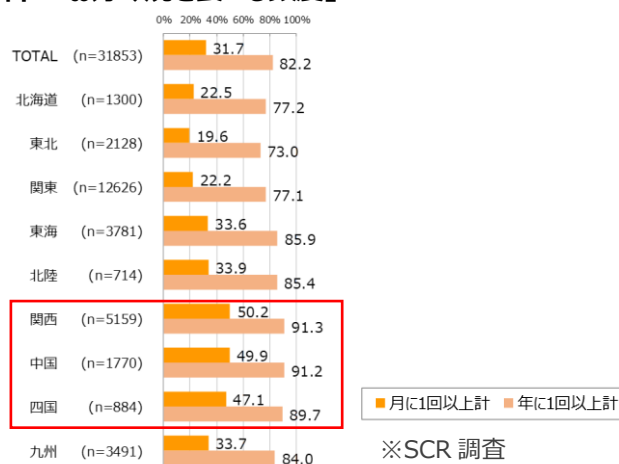
【1】2018 年も 2022 年も、3 万人のうち約 9 割が「お好み焼が好き」は 変わらない傾向。関西・中国・四国では約半数が「月に 1 回以上」喫食。

「お好み焼はどの程度好きか」という問いに、全体の約 9 割が「好き」(とても好き・好き・やや好き)と回答。(資料 1)「お好み焼を食べる頻度」についての問いに対しては、全体の 8 割以上が「年 1 回以上」と回答。また「月に 1 回以上」は、全体で約 3 割に対し、関西地方・中国地方・四国地方では「月に 1 回以上」が約 5 割と、半数のご家庭で定番メニューとなっていると想定されます。(資料 2)好意度、頻度ともに 2018 年と同様の傾向で、全国的に変わず親しまれていることが伺えます。

資料 1「お好み焼の好意度」



資料 2「お好み焼を食べる頻度」

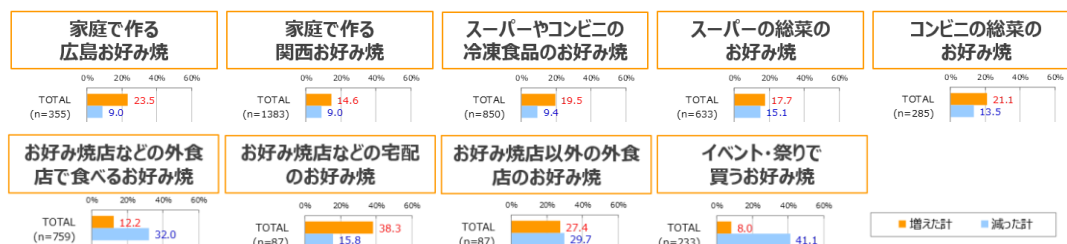


※SCR 調査

【2】コロナ禍で「手作り・冷凍・総菜・宅配」でのお好み焼の喫食頻度が増加。手作りが増えたのは「家にいる時間が増えた」から。

カテゴリ別に「コロナによる自粛や制限に伴い、お好み焼を食べる頻度が増えたか、減ったか」（コロナによる自粛や制限期間は緊急事態宣言が初めて発令された2020年4月～2022年4月まで）を聞く問いでは、「家庭で作る広島お好み焼・関西お好み焼」のほか、「冷凍食品・総菜・宅配」で「増えた」が「減った」を上回る結果に。一方で、「お好み焼店などの外食店で食べる」「イベント・祭りで買う」は「減った」の回答が、「増えた」を大きく上回り、コロナ禍の影響がみられます。（資料3）

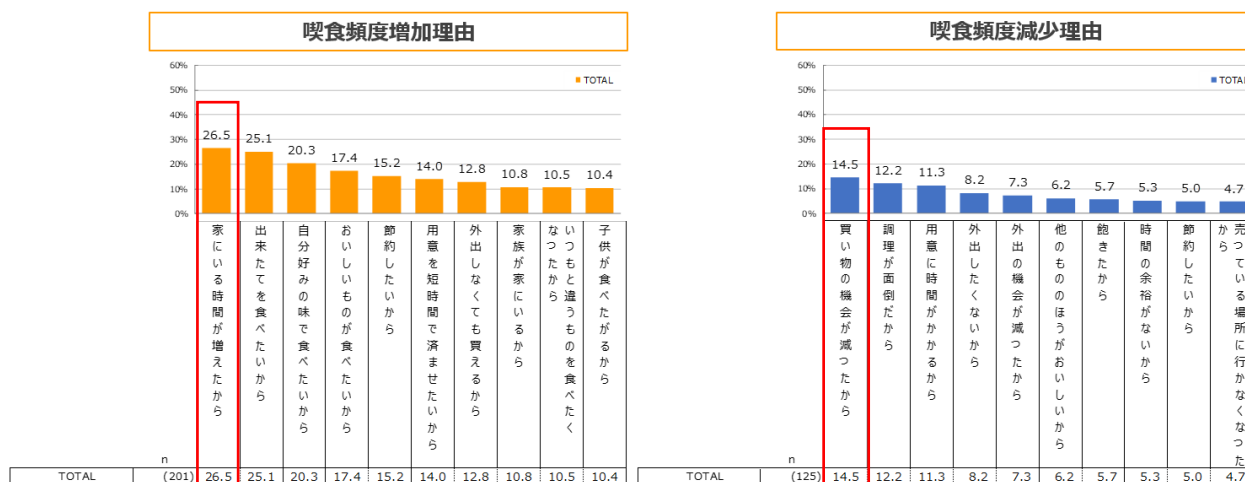
資料3「コロナにおけるお好み焼喫食頻度増減」



※お好み焼を3ヶ月に1～2回以上食べるかつ1年以内に該当お好み焼を食べた人ベース

上記の増減に関し、『家庭で作る関西お好み焼』を食べる頻度が増えた理由やきっかけについては「家にいる時間が増えたから」が最多。反対に減った理由やきっかけとしては「買い物の機会が減ったから」が最多に。生活スタイルの変化が食卓のメニューにも関連していることがわかります。（資料4）

資料4「家庭で作る関西お好み焼喫食頻度増減理由」（複数選択）



※お好み焼を3ヶ月に1～2回以上食べるかつ該当お好み焼を食べる頻度が増えた/減った人ベース

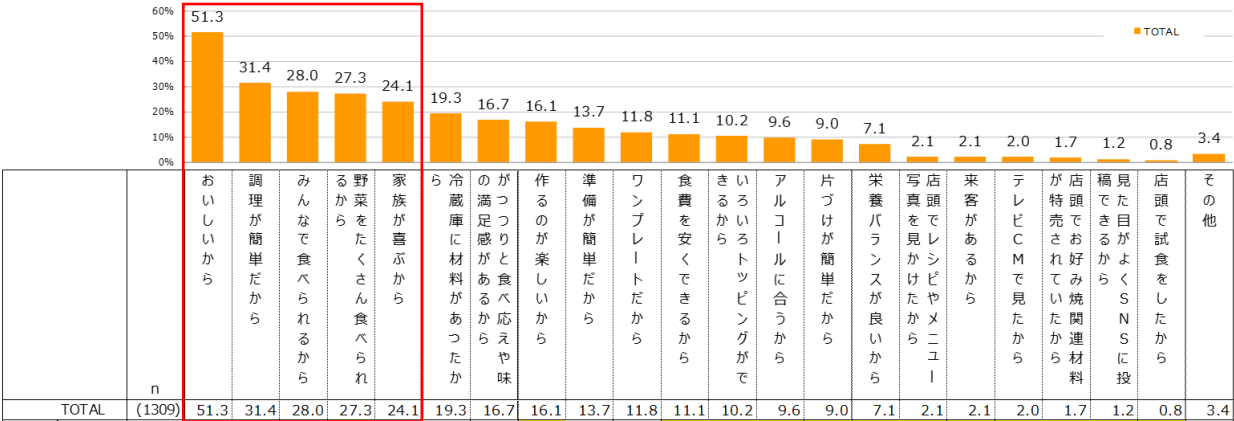
お好み焼は手作り・中食・外食などの日常の食事はもちろん、祭りなどのハレの日まで、さまざまなシーンで広がっているメニューであるからこそ、社会情勢の変化に応じて、喫食スタイルも変わってきていることが表れているようです。

【3】家庭でお好み焼を作る理由は「おいしい・簡単・みんなで食べられるから」。フライパン調理も増加。

「ご家庭でお好み焼を作ろうと思う理由・きっかけ」についての質問では、おいしさ・家族みんなに喜ばれるメニューであるという背景とともに、調理の簡単さも第2位に。(資料5)

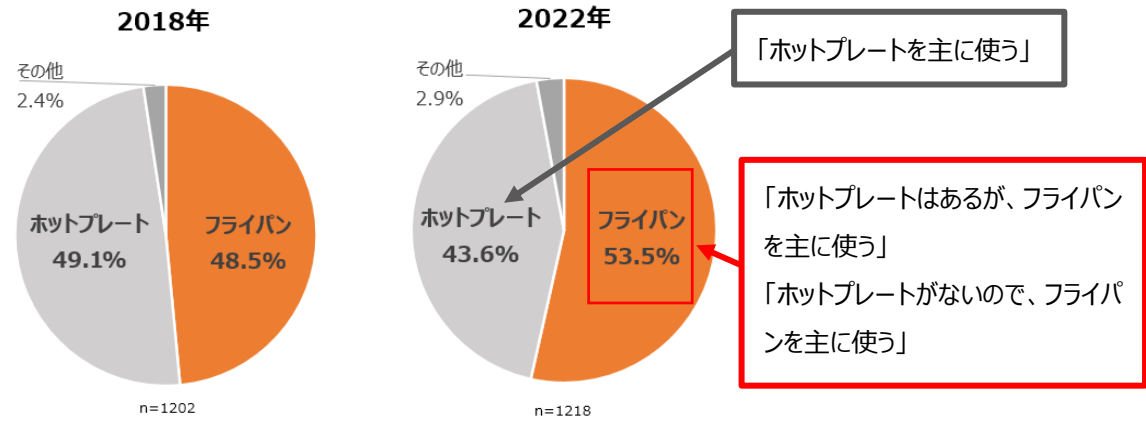
さらに「ご家庭で関西お好み焼を作る際に使用する調理器具」についても、2018年と2022年を比較すると「フライパンを主に使う」に関連する回答が、2022年は「ホットプレートを主に使う」を上回り、道具の面でも、手軽なことが重視されているようです。(資料6)

資料5「家庭でお好み焼を作ろうと思う理由・きっかけ」(複数選択)



※お好み焼を3ヶ月に1〜2回以上食べるかつお好み焼調理経験(本人)者ベース

資料6「家庭で関西お好み焼を作る際に使用する調理器具」



※お好み焼を3ヶ月に1〜2回以上食べるかつお好み焼調理経験(本人)者ベース

【4】好きなトッピング第 1 位は、不動の「いか」。

関西お好み焼・広島お好み焼の好きなトッピングは、2018 年も 2022 年も変わらず第 1 位が「いか」。
両メニューで、上位のラインアップはおなじみのトッピングが並ぶ結果となりました。(資料 7、資料 8)

資料 7「広島お好み焼の好きなトッピング TOP10」 資料 8「関西お好み焼の好きなトッピング TOP10」

2022年4月調査 TOTAL (n=2475)		
1位	いか	35.3%
2位	そば	35.0%
3位	かつおぶし	33.3%
4位	天かす	31.9%
5位	えび	30.8%
6位	ネギ	29.3%
7位	紅ショウガ	25.7%
8位	チーズ	20.9%
9位	桜えび	17.3%
10位	イカ天	14.8%

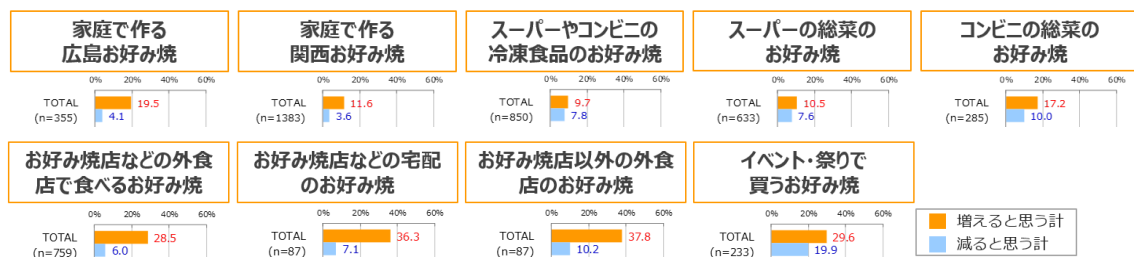
2022年4月調査 TOTAL (n=2475)		
1位	いか	46.3%
2位	かつおぶし	44.5%
3位	天かす	44.2%
4位	えび	41.6%
5位	紅ショウガ	37.4%
6位	ネギ	35.3%
7位	チーズ	26.9%
8位	桜えび	22.6%
9位	もち	19.0%
10位	牛すじ	15.8%

※お好み焼を 3 ヶ月に 1～2 回以上食べる人ベース

【5】今後、お好み焼を食べる頻度は「増えると思う」が「減ると思う」を、手作り・総菜・外食など全カテゴリで上回る。

「コロナによる自粛や制限が落ち着いた後、お好み焼を食べる頻度はどうなると思うか」という質問では、すべてのカテゴリで「増えると思う」が「減ると思う」を上回る結果に。さまざまな形で広がったお好み焼の食べ方が、それぞれのスタイルに合わせて定着していく可能性があります。(資料 9)

資料 9「コロナ後のお好み焼喫食意向」



※お好み焼を 3 ヶ月に 1～2 回以上食べるかつ 1 年以内に該当お好み焼を食べた人ベース

食環境が変化してもさまざまな形で食卓に取り入れられ続けているお好み焼の現状は、生活スタイルの変化を映す結果となりました。弊社では、そのお好み焼の食材、調理方法やシーンなどを問わない多様性に富んだフレキシブルな価値とともに、健康的で団らんなどのコミュニケーションを生む普遍的な価値を、時代やお客様のニーズにあった形で提案し続けてまいります。